

## 平成30年度 地方創生推進交付金

### 神話とたたら製鉄の郷 奥出雲の仕事づくり

#### ～伝統産業・観光産業の振興事業～

たたら製鉄が連綿と受け継がれる町として、たたら製鉄から生み出される至極の玉鋼の今日的価値を高めるとともに、たたら製鉄の歴史背景、関連する営みやそこにあるストーリーを受け持つ商品を認証することにより、たたらの価値、奥出雲の価値を地域ブランドとして広く発信する。

また、たたら製鉄から派生した伝統産業の再生と観光資源としての周遊観光ルートを開発する。




- たたらブランドの認証及び認証製品を活用したブランド推進
- 和鉄を使用して作刀を行う刀匠、デザイナー等の誘致と環境整備
- たたらに関連するグッズ開発
- たたらに起因する算盤産業の再生
- たたら製鉄に関連する周遊観光ルートの開発など

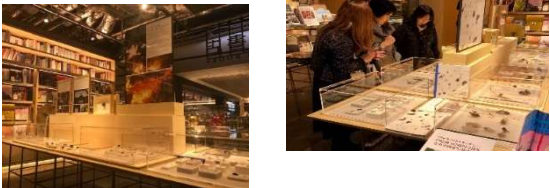
※「奥出雲たたらブランド」とは・・・「たたら製鉄」の今日的価値と「奥出雲町」という空間や営まれる暮らしの価値を全世界に発信するため、たたら製鉄から生み出される「玉鋼」を原料とした製品や「たたら」から派生する農産物などを認証し、その製品・商品を通して、幅広い層をターゲットにアプローチをかけ、たたら製鉄の地域ブランド化を図る。









TATARA  
IRON-MAKING  
OKUIZUMO

# 1. 和鉄を活用した「奥出雲たたらブランド」の確立


目的	(1) 奥出雲たたらブランド事業推進組織の設立・運営
実施した内容 (H30)	<p>「たたら製鉄」から生み出される至極の玉鋼の今日的価値を高めるとともに奥出雲町をPRするため、「奥出雲たたらブランド認証制度」を創設し、全国の刀匠等に周知し、玉鋼製品を募集 (H30 年度中 2 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■たたらブランド憲章及び認証制度を確立するため、学識経験者を交えた「奥出雲たたらブランド推進会議」を開催 (H30 年 8 月、H31 年 3 月開催)</li> <li>■たたらブランド認証審査会の開催 (H30 年 8 月、H31 年 3 月開催)</li> <li>■SNS を活用した情報発信</li> </ul>
事業実施した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■たたらブランド推進会議による「奥出雲たたらブランド」のブランド化、認証制度の創設と認証審査会 (2 回) の実施。</li> <li>■たたらブランド認証制度により玉鋼製品を募集し、認証審査会を経て、21 点の玉鋼製品を認証 (町内 2 者、4 点)</li> <li>■認証制度創設、初認証によるマスメディアでの取り上げによるブランド周知効果</li> </ul>
課題・今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■情報発信による「奥出雲たたらブランド」の認知度と価値の向上による地域ブランドとしての地位確立</li> <li>■全国の刀匠に向けた「たたらブランド認証制度」の普及啓発による認証製品の増加</li> <li>■認証審査会により玉鋼製品を認証し、「奥出雲たたらブランド」の価値向上とブランド製品の範疇の拡大</li> <li>■奥出雲たたらブランドプロジェクトへの参加刀匠の拡大</li> </ul>
R1 取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第 3 回「奥出雲たたらブランド」認証製品・作品の募集。</li> <li>■奥出雲ブランド推進会議・第 3 回ブランド認証審査会の開催。</li> <li>■たたらブランド認証作品の観光協会等での展示並びに販売。</li> <li>■認証製品については、たたら製鉄に由来する商品群を包括したブランドを通して、「たたら」から派生する仁多米やソバなどの農産物や特産品、棚田景観やたたら関連イベントなどの観光資源への拡大を検討していく。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">[奥出雲たたらブランド認証製品・作品]</p>
目的	(2) 和鉄を使用して製作を行う刀匠の誘致
実施した内容 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■全日本刀匠会や日本美術刀剣保存協会の協力を得て、平成 30 年 4 月より地域おこし協力隊として刀匠 1 名が奥出雲町へ移住し、鳥上木炭銚工場日本刀鍛錬道場で活動を開始</li> </ul>
事業実施した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■刀匠 1 名が奥出雲町へ移住し、作刀活動を開始</li> <li>■春の新作刀展へ製作した日本刀を出品し入選</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本刀の材料となる玉鋼を製造する「たたら操業」に携わり、たたら製鉄に対する知見を深め、作刀活動への意欲を高めた。</li> </ul>
課題・今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■誘致した刀匠の活動サポート</li> <li>■誘致した刀匠の作刀技術の向上</li> <li>■たたらブランド認証製品の制作に向けたデザイナーとの連携</li> </ul>
R1 取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■刀匠活動のサポート</li> <li>■作刀技術の向上と新作刀展への出品へのサポート</li> <li>■刀匠の技術を活かした体験メニューの開発</li> <li>■玉鋼の新たな可能性に挑戦する「刀匠とデザイナー・クリエイターによる玉鋼の新たな作品づくりプロジェクト」への参画 [地域おこし協力隊 古山刀匠]</li> </ul>
目的	<b>(3) たたらブランド製品の促進・たたらグッズ等製品開発</b>
実施した内容 (H30)	<p>たたら操業で生み出される鉾と同時にノロ（鉄滓）が副産物として排出される。これまでノロは廃棄物として扱われてきたが、有価物としての価値化を図るため、新たな素材として若者や女性をターゲットにジュエリーという新たな切り口で商品開発を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■首都圏のデザイナー4名と連携し、ノロを使った新商品開発の研究を行った。</li> <li>■ノロ製品の開発及び販売戦略について、プロデューサーと連携し H31.2 月東京銀座 SIX 蔦屋店において発表展示販売会を試験的に実施。</li> </ul> <p>※ノロ：玉鋼を生産する過程で生まれる副産物(スラッグ(鉍滓))のこと。</p>
事業実施した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■活動内容について「facebook」ページを8月に立ち上げ情報発信。約 200 人にフォロワーになってもらっている。</li> <li>■ノロを素材とした商品開発に向け、4名のデザイナーと連携体制が構築できた。</li> <li>■女性向けジュエリー（アクセサリ）開発に向けた試作品7品目を製作。</li> <li>■東京銀座 SIX 蔦屋店での製品発表及び展示即売会を実施し、市場性についてリサーチを行った。</li> </ul> <p>会期中の来場者数：蔦屋書店全体 63,298人 日本刀売り場 4,286人</p> <p>販売金額：524,880円 (TATALITE 商品19点)</p> <p>※展示会終了後、4名の方が購入をされました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■展示会について各種新聞社、雑誌、WEB サイト等に掲載された。</li> </ul>
課題・今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■認知度や素材としての価値を高めるための情報発信と製品アイテムの開発。</li> <li>■デザイナーやアーティスト等への新たな素材としての周知。</li> <li>■首都圏で活動する4名のデザイナーとの連携を図っており、地元への誘致や二拠点などを推奨し、地場に産業として誘致を検討する。</li> <li>■新たな活用法の研究（釉薬など）。</li> </ul> <p>[展示会の様子]</p> 






R1 取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地元販売の開始（7月から観光協会において受注生産方式開始）</li> <li>■クリエイター等の誘致につなげるワークショップの開催。</li> <li>■他プロジェクトと連携した釉薬（陶磁器）としての活用研究。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">[ノロ試作品]</p>
目的	(4) たたら関連PR、刀匠、デザイナー等への情報発信
実施した内容（H30）	<p>これまで玉鋼の利用については刀剣類、茶釜、文化財補修和釘と利用範囲は限定的であったことから、玉鋼が扱える刀匠とデザイナーの連携による新たな「たたらブランド」製品の開発を目指し調査研究を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■刀匠とデザイナーとがコラボレーションした「奥出雲たたらブランド」の象徴となる玉鋼製品の製作。</li> <li>■地元刀匠と地元鍛冶屋による「玉鋼和包丁」の製作による仕事づくり。</li> </ul>
事業実施した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■玉鋼の新たな可能性に挑戦する「刀匠とデザイナー・クリエイターによる玉鋼の新たな作品づくりプロジェクト」により「奥出雲たたらブランド」の象徴となる日本刀の製作と3Dプリンタを活用した日本刀の試作完成</li> </ul>
課題・今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■たたら製鉄及び奥出雲町、たたらブランド製品を全世界に向けて積極的に情報発信するための多言語HPの開設とパンフレットの作成</li> <li>■ブランドイメージの浸透と奥出雲町とたたら製鉄の魅力を発信する「奥出雲町とたたら魅力伝える（仮）」展示会・発表会の開催（東京都）</li> <li>■刀匠×デザイナーによる「奥出雲たたらブランド」の象徴となる玉鋼製品の商品開発</li> <li>■ブランド製品の販売網の確立とHPやSNSを活用した世界への情報発信</li> </ul>
R1 取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■奥出雲たたらブランドの情報を世界に発信する多言語HPの開設</li> <li>■「奥出雲たたらブランド」の象徴となる玉鋼製品の商品の開発を行い、今年度中の商品化を目指す</li> <li>■R1. 11月を目途に首都圏での製品完成発表会及び関係者情報交換展示会を開催。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">[刀匠とデザイナーとの連携による玉鋼の現代的表現作品]</p>



### 3. たたら製鉄に関連する伝統産業の再生支援

目 的	(1) 算盤珠内製化支援事業
実施した内容 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■雲州算盤の材料に使われる算盤珠は現在、全て播州（兵庫県小野市）において製造され雲州に提供されているが、現地での珠製造に係る職人の高齢化と担い手不足により、雲州への珠の供給は不安定となり、今後、雲州算盤の産地を守る上では、算盤珠の内製化は喫緊の課題であった。</li> <li>■平成 28 年度事業により、算盤珠削り機（中古）を購入し、稼働できるよう再整備を行ったが、極めて高い技術技能を有するため削り技術の中核部分である刃物部分をアタッチメント化し、技術技能の平準化を図る目的で改良開発に向けた研究を県産業技術センター及び機械工学専門業者の協力のもと行った。</li> </ul>
事業実施した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■珠削り機の刃物アタッチメント化は出来上がり削り精度も高まった。</li> <li>■課題であった刃物の鋼材については、耐久性と削り精度を検証し、高速度工具鋼鋼材（ハイス）とし、刃物研磨角度の検証も行い、研磨角度を設定出来た。</li> </ul>
課題・今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■産地内での珠製造体制について、雲州そろばん協業組合により担うことが決定。珠削りの技術習得に向けた機構の知識、メンテナンス技能の習得を図る。</li> <li>■珠削りの精度について、整形技術の向上。</li> <li>■現在改良がおこなわれたのは 1 台であり、圧倒的に生産体制が弱い。このため、この度開発された珠削りの機構をベースに、新たな削り機の開発が望まれている。（大量生産体制の確立）</li> </ul>
R1 取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■削り機の微調整を産業技術センターの支援のもと機械工学専門家に依頼</li> <li>■新たな珠削り機構について、県産業技術センターへ開発研究を依頼</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>[算盤珠削り機と珠削り状況]</p> </div>

## 4. たたら観光振興

目的	(1) 周遊拠点施設整備事業
実施した内容 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 観光拠点施設において抜刀演武を広く来館者に披露し、鉄に関する魅力を発信し、集客の向上を図った。</li> <li>■ 玉峰山荘にて毎週火曜日午後5時30分及び年末に披露し、多くの来場者に真剣による本物を体験して頂くことで本町の魅力向上を企画した。</li> </ul>
事業実施した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全国で唯一の「たたら操業」を広く情報発信するため、観光集客施設と連携し、町外からの誘客を促進し活性化に寄与した。</li> <li>■ 真剣による本物を披露することにより、鉄に関する関心を高め、地域文化の情報発信と訪問者の増に繋がった。</li> <li>■ 28公演行い、約420名観覧し、期間中における玉峰山荘入館者も前年増となり、観光誘客に繋がったと考えられる。</li> </ul>
課題・今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 鉄に関する誘客イベントを企画し、町観光協会が企画する旅行商品に積極的に取り入れ、訪日外国人客をはじめ日本の文化を広く発信し集客力の高い企画に繋げる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
目的	(2) 周遊観光ルート事業
実施した内容 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ これまでたたらと刀剣館において日本刀鍛錬実演及び展示品管理業務を行っている地元刀匠による本物の日本刀製作を行った。</li> </ul>
事業実施した成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本刀製作により観光集客施設等における抜刀演武時に使用し、迫力ある披露を間近に体験することにより鉄の魅力発信に繋がった。</li> <li>■ 抜刀演武に使用した刀をたたらと刀剣館等で展示し、本事業の成果を広く情報発信に繋がる取り組みとなった。</li> </ul>
課題・今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 鉄に関する誘客イベントを企画し、町観光協会が企画する旅行商品に積極的に取り入れ、訪日外国人客をはじめ日本の文化を広く発信し集客力の高い企画に繋げる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>

本事業における 重要業績評価指標（KPI）	本事業 計画策定時 (H29. 6)	H29 事業 終了時 (H30. 3)	H30 事業 終了時 (H31. 3)	目標年度 (R2. 3)
	指標値	実績値	実績値	目標値
刀匠、デザイナー、そろばん、木工及び 刃物産業新規就業者（人）	0	0	5	6
「たたらブランド」認定製品の商品化点 数（累計）	0	0	21 (4)	15
「たたらブランド」認定製品の製造販売 事業者数（累計）	0	0	13 (2)	9

※雇用実績：雲州そろばん協業組合 4 名採用、刀匠誘致 1 名

※たたらブランド認定製品 21 点中、町内認定点数 4 点

※たたらブランド認定製品製造販売事業者 13 事業者中、町内 2 事業者